

## 子育て支援における食育プロジェクトの推進 ～食生活に関する現状とニーズ調査～

あかい あやみ

○赤井 綾美, 文元 基宝

(NPO 法人関西ウェルビーイングクラブ)

### 【目的】

現代社会の職住分離に始まる地域・家庭環境の変化、生活様式の欧米化は、日本の食卓により「簡単で便利」、「優れた栄養価」などの付加価値とともに、加工食品を肯定的に受け入れる企業戦略の下、その影響についての振り返りや深い反省のないまま、猛烈な勢いで浸透してきた。ここに至り、現代の「食の安全」に対する不信に象徴される問題が噴出する中、各世代の社会的背景から背負ってきた食への意識・責任などを振り返り、地域住民自らが、食環境問題に取り組むことが重要である。

特に、乳幼児期の「食」は心身の発達にとって大変重要な時期であるとともに、哺乳から捕食という人間としての「食べる」機能および味覚の発達にとっても重要な時期である。しかし、加工食品の浸透とともに育ってきた現在子育て中の親世代の「食」に対する意識や食行動が、子どもたちの健全な発達や発育への影響を及ぼしているような事例も少なくない。

このような問題意識から、2007年度、大阪市阿倍野区保健福祉センターおよび同区の子育て支援連絡会からの要請で、当NPO法人との協働事業として、阿倍野区「食育」プロジェクトが立ち上がった。当面の取り組みとして、0～2歳の乳幼児およびその保護者を対象とした支援プログラムの開発を目的に、今回ニーズ調査を行ったので報告する。

### 【方法】

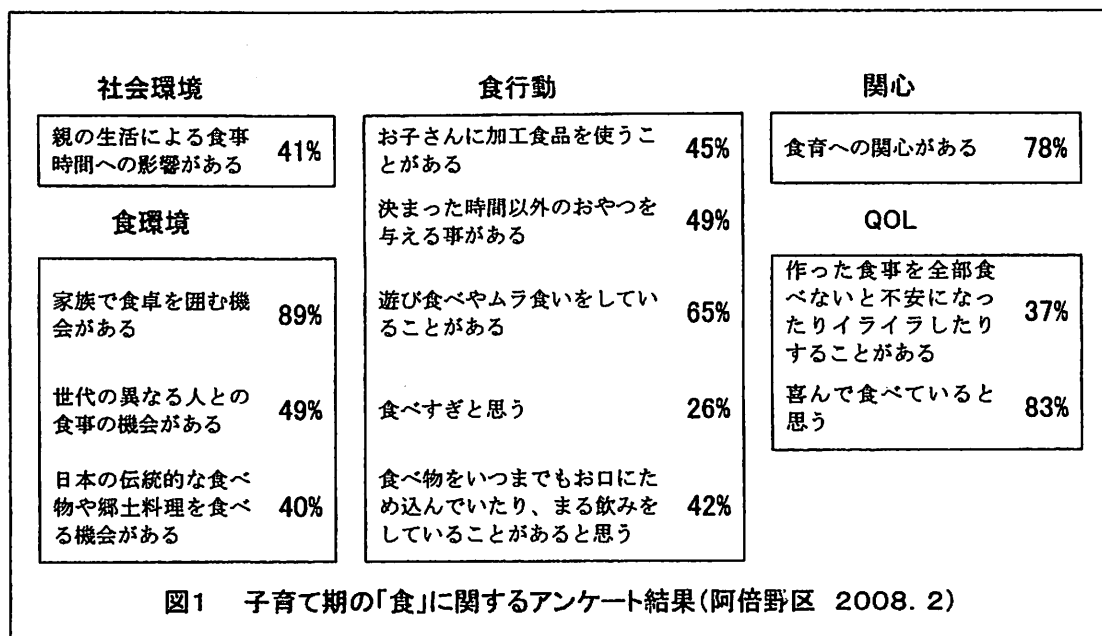
プロジェクトの推進に当たり、阿倍野区の子育て支援者および当事者の「食」に対する問題意識を共有し、プロジェクトの目的を明確にするために、支援者と当事者にそれぞれグループワークを行なった。その結果をKJ法により整理した。整理された食環境および食に関する問題行動などの課題について、支援者および当事者の課題意識の差を勘案しながら選定し、アンケート票を作成した。アンケート調査は、阿倍野区の3地区の「親子のつどい」のひろば事業および区役所内

「子育て交流会」(H20.2.22~2.29)に参加した、1歳から4歳の保護者を対象とし、自記式にて行ない、65件の回答を得た。

### 【結果】

支援者を対象に行ったグループワークから、社会環境を背景に食文化継承の機会の減少とともに親の都合の優先や加工食品の浸透による口腔機能の低下、子どもの五感の低下、食への感謝の意識の低下など、子どもの育ちへの影響が示唆された。しかし、当事者のグループワークでは、食の安全・信頼に関する問題が、子育てにおいて大きな不安材料となっている現状が際立ち、食環境や食行動による子どもの育ちへの影響についての問題意識や課題は少ない結果となった。

アンケート結果を図1に示す。また、「食の安全性」、「日常の食に関する問題」「地域にあればいいと思う支援や活動」について、自由記述にて回答を求めた。食の安全性については、「表示を信用して購入しているが、どこまで信用していいのか迷う」、「何が安全で、何が安全でないかよくわからない。特に外食になれば不安が高い」など、信頼性についての疑問の声が多かった。食に関する問題としては、「子どもがよくかまわずに食べる。姿勢が悪いこと。箸の持ち方、おわんの持ち方など」、「子どもがアレルギーなど食べる物が限られた時期があったこと」「子どもの食が細い(日によってバラバラ)主人は肉が好きだが、子どもは魚が好き、週末以外はほとんど別メニュー」「メニューがほとんど決まっただけでバラエティーがない。子どもに野菜を食べさせることがなかなかできない」など、日常的な困り事が多く見られた。地域にあればいいと思う支援や活動は、「地域でとれた野菜を安く買えたらうれしい」「子どもメニューの提案や調理実習の場。離乳食だけでなく、幼児食」「子どもと一緒に料理を作れるイベント。兄弟が多くても一人で連れて行けるとよい」など安心できる食材の提供と幼児期ま



でのメニューの紹介や調理の方法、親子で参加できる企画を希望する声が多かった。

【考察】

支援者と当事者のグループワークの結果、支援者が最近の親子の食行動や食文化の乱れについて危惧するほど、当事者は重大に感じておらず、食の安全が確保されれば、どんどん便利な加工食品ができればいいといった利便性のメリットに価値観を置く傾向が見られ、食についての問題意識のズレが大きいことが明らかとなった。しかし、支援者同士の問題共有や親世代の認識を支援者が共有する中で、支援者の世代の社会的背景から背負ってきた食への意識・責任などを振り返ることができ、現代の食の問題や子どもの育ちを支えていく為の食環境は、「今の親世代だけに背負わせるものではなく色々な世代が協力して実践することが、今求められている」ということを再認識することができた。

アンケートの結果からも、半数以上が世代の異なる人との食事の機会や日本の伝統的な食べ物や郷土料理を食べる機会がないことが明らかとなり、子どもたちが様々な食や味に出会う機会、また色々な人との出会う機会も乏しいことがわかる。子どもたちが育ちの中で「食べる」ということに興味を持ち、心から「おいしい!」と感じるような体験を持つこと、またその環境づくりのプロセスを多くの世代が経験、共有す

ることで、新たな地域の食文化を育成していくことが重要であると考えます。

【RTで検討したい課題】

今後、アンケート調査の結果を基に、課題の選定と目的・目標の共有と課題解決に向けたプログラムの開発に当たり、歯科・栄養・保育分野、子育て支援の専門職との協働により、住民参加の包括的な支援のモデル構築を目指したいと考えている。また、今回様々な機関との協働でプロジェクトの立ち上げが実現したが、今後のプロジェクト推進に向けた組織づくりや継続に向けた資源の調達など、具体的に事業を発展継続させるための意見交換を行いたい。

最後に、今回協働させていただきましたプロジェクトメンバーの阿倍野区保健福祉センター、阿倍野区社会福祉協議会、阿倍野区コミュニティ協会、特定非営利活動法人こももネット(子育て支援の団体)、大地の会(地域活動栄養士の団体)のみなさま、調査にご協力いただきました阿倍野区主任児童委員のみなさまに、心より感謝申し上げます。

(連絡先) 赤井 綾美

〒536-0023

大阪市城東区東中浜3-2-2

TEL/FAX 06-6965-2575

e-mail akai-ayami@occn.zaq.ne.jp